7 目黒区 旧栗山家主屋（きゅうくりやまけしゅおく）

古民家情報

建築年代：江戸時代中期
規模：桁行 7.5 間・梁間 5 間
構造：三間取り広間型
寄棟造り・茅葺型銅板葺き
目黒区指定有形文化財（建造物）

旧栗山家主屋（目黒区古民家）は、江戸時代から「たけのこ」の特産地として知られていた目黒に今も残る、竹林の美しい「すずめのお宿緑地公園」にあります。

栗山家は旧衾村（ふすま）で「年寄（としより）」という役職を代々勤めた家柄で、普通の農家よりも規模が大きく、一般には禁じられていた長屋門を前面に配した格式の高いものでした。建てられた年代は、大改修の記録や軸組・建築様式から、江戸時代中期と推測されています。

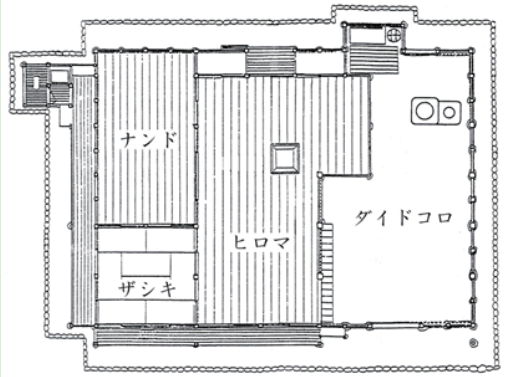
法規制により茅葺屋根を茅葺型の銅板葺にしたほかは、ほぼ往時の通り復元しています。長屋門は現在解体・保存されています。

ご利用案内・アクセス

開 **9：30～15：30**（月曜日・火曜日休館、ともに祝日の場合は翌日休館） **料** なし
所 目黒区碑文谷 3-11-22 すずめのお宿緑地公園内
交 ＪＲ山手線ほか「目黒」駅から東急バス（大岡山小学校行）「碑文谷三丁目」下車徒歩 3 分、東急東横線「都立大学」駅下車徒歩 10 分
問 目黒区めぐろ歴史資料館 **Tel.03-3715-3571 Fax.03-3715-1325**

見どころポイント！

その1！ 間取り



栗山家主屋の規模は桁行 7.5 間、梁行 5 間で、東側にダイドコロ（土間）、西側にヒロマとナンド・ザシキの 2 部屋が並ぶ広間型平面・寄棟造の構造です。創建年代は明らかではありませんが、安政 4（1857）年に大改築をした記録や、次の 3 つの建築様式の特徴から江戸時代中期と推定されます。

①ダイドコロとヒロマの境にある 3 本の大黒柱の断面が長方形であること
②柱が梁行は半間ごと、桁行は 1 間ごとにあること
③南側の縁側が外縁であること

その2！ こまいたけ

栗山家主屋の壁は、刻んだ藁を加えて練った泥を芯に塗りつけた、泥壁で出来ています。壁の芯には、割いた竹を格子状に編んだものが使われており、これを「こまいたけ（小舞竹・木舞竹）」といいます。

主屋北側の明かりとりでは、泥壁の芯である「こまいたけ」の一部や、壁土に練りこまれた藁のかけらを見ることができます。